

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
16104006	高分解能計測技術を用いた極地氷床氷のミクロ物性の解明と変形機構図の構築	東 信彦（長岡技術科学大学・工学部・教授）	C
<p>本研究は、氷床中の氷結晶変形機構と、氷床の流動に伴う氷中の環境・気候指標物質の挙動を解明するために、(1) レーザー干渉測長技術を用いたナノメートルオーダーの微小変位の観測手法の確立、(2) レーザーアブレーションによる微小領域の含有不純物分析技術の開発、(3) 氷床氷の結晶集合組織発達と含有不純物の相互作用を含む氷床氷変形機構図の構築を目指したが、レーザー干渉測長計とレーザーアブレーション質量分析システムは、完成されないまま研究期間が終了した。研究期間中に得られた成果は少なく、十分な進展があったとは言い難い。</p> <p>中間評価でも、計測技術・分析技術の開発の遅れが指摘されていた。研究を十分に進展できなかった原因として、研究代表者は、温度環境など未知の困難な課題が数多く発生し、それを試行錯誤によって克服するのに時間を要したことと、開発に必要な十分な人員を配置することができなかったことを挙げている。</p> <p>今後は、基盤研究（S）による支援が無駄に終わることがないように、当初の研究目的に沿った研究を完成させる努力を続けることを期待したい。</p>			